

開催日時：2003 年 7 月 1 日（火） 17：00～20：20

場 所：天満研修センター 205 ホール

参加者数：委員 10 名、他部会委員 1 名、河川管理者 12 名、一般傍聴者 79 名

1 決定事項：特になし

2 審議の概要

委員会、他部会の状況報告

資料 1「委員会および各部会（提言とりまとめ以降）」をもとに、提言とりまとめ以降の委員会、部会等の開催状況が説明された。

河川管理者からの説明と委員との質疑応答

資料 2-2「河川管理者への確認事項」について、部会意見とりまとめのリーダーである田中委員から説明された後、猪名川部会として河川管理者に確認が必要と思われる事項について、質疑応答と意見交換が行われた。

<主な議論、意見>

計画全体について

「実施」と書かれていないもの（精査確認、調査確認、見直し等）は全て「検討」に含まれることが確認された。

狭窄部（銀橋）の治水対策について

- ・目標（既往最大規模の降雨に対する浸水被害の解消）について

「今後の検討の大きなポイントとなる事項である」との確認のもと、多くの意見が出された。

「今の目標が過大なのでは」「20～30 年で対応可能な現実的な目標が必要では」「地元住民との話し合い等によって決めるべきで、委員会で目標を決めるのは無理ではないか」

「過去に経験した、という意味では既往最大降雨を目標とするのは適当では」「コストと効果の関係を見れば適切な水準が設定できるのでは」等の様々な意見が出された。

- ・狭窄部の浸水対策について（ダム以外の代替案、ソフト対策）

水田やため池、雨水マスの設置について「実施できるかどうか評価してみるべきでは」との委員の意見に対して、河川管理者から「想定した効果が発揮できるか不確定な面が大きい」「農業従事者の負担も考慮した上で検討頂きたい」との意見が出された。

- ・狭窄部の開削について

開削の是非、効果について意見が出された。

余野川ダムの見直し案

- ・一庫ダムの利水容量の振り替えについて

「大阪府営水道からの転用も代替案の一つでは」との意見に対して、河川管理者より「府営水道には余裕が無く、利水安全度が低下するので難しい」との返答があった。

- ・社会的合意、有効性判断の客観性について

河川管理者より「河川管理者が委員会、自治体、住民に意見を聴きながら河川整備計画を策定することで社会的合意や判断の客観性が実現される」との回答があった。他に、「社会的合意の基準をまず合意する必要があるのでは」等の意見が出された。

< 委員から河川管理者への依頼事項 >

- ・以下のデータの提出を河川管理者に依頼した。
 - ・大阪府営水道の利水安全度に関するデータ
 - ・余野川ダムと一庫ダムそれぞれの流域の降雨量が比較できるデータ

今後の進め方について

7月後半に現地視察も含めた検討会を実施することが確認された。

一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者2名から「近年、気象が大きく変化していることを真剣に考慮して頂きたい」「命と財産を同列にして扱うのではなく、考え方やレベルを変えて対応するという発想も必要」などの発言があった。

以上

このお知らせは委員の皆様にご会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。